

まちづくり勉強会「秦野のまちを、もっと面白く」開催結果

1 開催日時（会場）

令和8年5月26日（火）午後7時から午後9時まで（秦野市農協さわやか館）

2 講師

- ・ 山形まちづくり株式会社 下田 孝志 常務取締役
- ・ 秦野市中心市街地活性化タウンマネージャー 伊藤 大海 氏

3 参加者数

60名

4 目的

- ・ 民間主体によるまちづくり事例やタウンマネジメント（まちのにぎわいや機能向上のための総合的なマネジメント）の考え方を学びながら、秦野駅北口周辺のこれからのまちの在り方を考えること。
- ・ 多様な主体が関わりながら、地域の魅力やにぎわいを育てていく視点を共有し、今後の未来図づくりや 新たな活動につなげていくこと

5 内容

- まちづくり会社の役割について（伊藤タウンマネージャー）

《まちづくりに係る社会的背景》

- ・ 出生数はベビーブーム（約60年前）から200万人減少している（約269万人⇒約67万人）。まちづくりを担う人達は意識して集める時代になった。人口減少は消費者数の減少にも直結する。
- ・ 全国的に財政が厳しくなり、郊外のインフラ維持も難しくなってくる。言い換えれば、人間がかつて住んでいたところに人間が住めなくなっている。
- ・ つまり、もう行政だけのまちづくりはできなくなっている。民間の活力がとても大切である。

《まちづくり会社の役割について》

- ・ 民間は利益の最大化を目的とし、行政は公益性を重視して事業を行う。そのため、両者のどちらにも完全には当てはまらない、利益と公益の両方の要素を含む領域が生じる。この領域こそが、まちづくり会社が担うべき役割である。
- ・ まちづくり会社は民間と行政の中間に位置し、多様な立場や思いを持つ人々を巻き込みながら、継続的かつ持続可能な経営活動を行っていくことになる。



まちづくり勉強会「秦野のまちを、もっと面白く」開催結果

○ まちづくりとまちづくり会社について（山形まちづくり株式会社 下田氏）

《都市経営の視点》

- ・ 中心市街地活性化は税收確保の側面を持つ。人口減少に伴い住民税が減少していく中で、固定資産税収入をいかに確保するかが重要となる。
- ・ 山形市では中心市街地の面積は市全体のわずか0.2%であるが、市の固定資産税収入の全体の15%を占めている。
- ・ 郊外を軽視するわけではなく、中心市街地の活性化によって税收を効果的に確保し、それを郊外のインフラ整備や住民サービスの向上につなげていく。これが都市経営の視点である。

《まちづくりについて》

- ・ 暮らしと日常の豊かさを求めていくことがまちづくりである。
- ・ どこかの先進事例を取り入れれば豊かになる、成功する時代は終わってしまった。「何をやるのか」ではまちは豊かにならず、大切なのは「なぜやるのか」「誰がやるのか」ということ。目的と手段が入れ替わらないようにしていく。
- ・ そのためにまちのみんなで共有する「ビジョン（〇〇なまちにしたいから、俺たちがやる）」が大切である。
- ・ まちづくりに必要な人材は地域の人だけではないという視点が必要。関係者を身内で固定しない。大切なのは「地域の未来を描くことができ、地域の魅力を伝えられる人」かどうか。
（伊藤氏）
- ・ いきなり「1か月後に何かまちのための事業を始めて」と言われてもできないと思う。しかし、仮にまちの皆で「10年後は緑豊かな森にしたい」という共通するものがあれば、ある程度構想案は浮かんでくるはず。こういった実行性もビジョンが必要な理由である。

《まちづくり会社について》

- ・ 行政（まちの管理の視点）と地域（利用する側の視点）をつなぎ合わせ、両輪で事業を進めていく新たな事業主体である。

＜山形まちづくりの考えと取組方針＞

- ・ まちづくり会社のイベントは、自分達だけではやらず、地域の人（特に子ども達や学生）と一緒に行う。
- ・ ただし、イベントや活動の場の提供で終わっては意味がない。「若者の視点を取り入れる」といって、ただの人員として利用するケースがよくみられる。
- ・ その場を使って、一緒にやる人達の「これがやりたい」を実現させてあげることで、まちに愛着を持ってもらうことが大事。
- ・ 特に学生などは一度まちを出ても、こういった経験から戻ってきてくれる。これは未来への投資である。

まちづくり勉強会「秦野のまちを、もっと面白く」開催結果

《エリアマネジメントについて》

- ・ まちづくりに関わる議題は多岐にわたる。それを全て組織のあて職で組まれた会で解決することは困難である。
- ・ たとえば交通のことなら交通の関係者、子育てのことなら子育ての関係者で集まらなければ、何も答えが出ない。
- ・ そのため、テーマや取組ごとに集まるメンバーが違うのは当たり前のことである。
- ・ まちづくり会社やエリアマネジメント組織は一つでなくてよい。それぞれの目的で集まって自発的に行動が生まれることが望ましい。
- ・ だからこそ、みんながバラバラに活動するのではなく、まちの目指す将来像を共有するための「ビジョン」が必要である。

6 質疑応答

Q1 ビジョンの共有をまちのみんなで行うことについて、下田氏が難しかったことは？（椎野氏）

A1 そこまで難しく感じていない。なぜなら「みんなで同じことをやりましょう」ではなく、あくまで「こういうまちにしたい」を共有して、活動は各々が行っているから。ビジョンづくり自体は、各組織の総会が4月～5月なので、3月までに決めなきゃ、ということではなかつた時間切れのようなかたちで決めた。

Q2 中心市街地の活性化の効果はどのように郊外へ波及していくのか？（原氏）

A2 まず中心市街地でエリアマネジメントのモデルができれば、他の地域でも真似することができる。郊外を含めて、いろいろな場所で自発的な活動、組織が生まれると良い。

（伊藤氏）中心市街地はショーケースの役割を果たしてくれる。他の地域でも真似したくなる。

Q3 駅前など同じ経済圏で元々面識がある人同士も多い中、どうやって多様な人達を繋げていくのか？（原氏）

A3 単純にお金儲けを考えるなら、地元には残らず東京に行くだろう。山形市でも秦野市でも、まちに残る人は自分の暮らしを大切にしているはず。そのまちで豊かな暮らしがしたい、をどれだけ引き出せるかが勝負である。

Q4 まちづくりでの若者の大切さはよくわかったが、高齢者も生きがいを持って暮らしてほしい。どのようにお考えでしょうか？（露木氏）

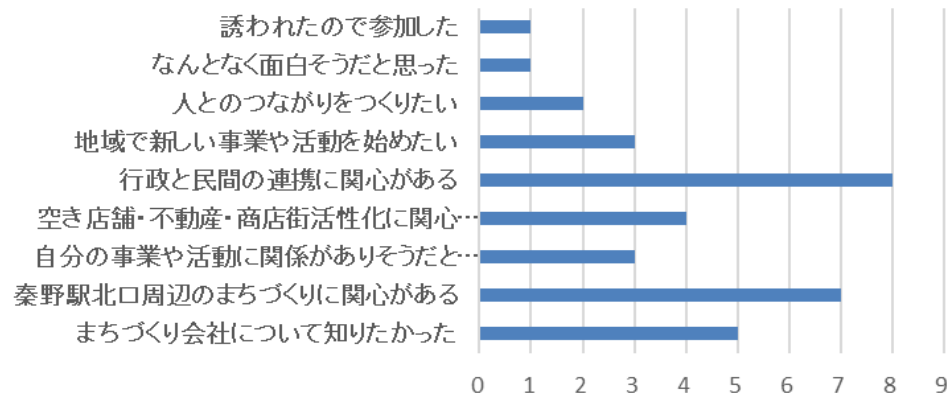
A4 高齢者の居場所も大切である。ただしまちづくりにおいて、若者と例えば70歳を超えた方は、同じ役割を果たすわけではない。

歴史や文化の継承やアーカイブ化は、そのまちに長くいるの方が適任であると思う。また、会の長を務めたり、いろいろな調整を行うことは、地域の重鎮の方が向いているだろう。

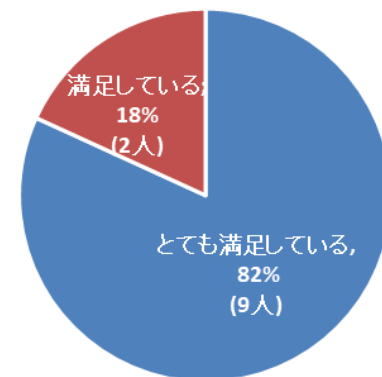
まちづくり勉強会「秦野のまちを、もっと面白く」開催結果

7 参加者アンケート結果①（回答人数：11人）

Q1.本日の勉強会に参加した主な理由を教えてください。



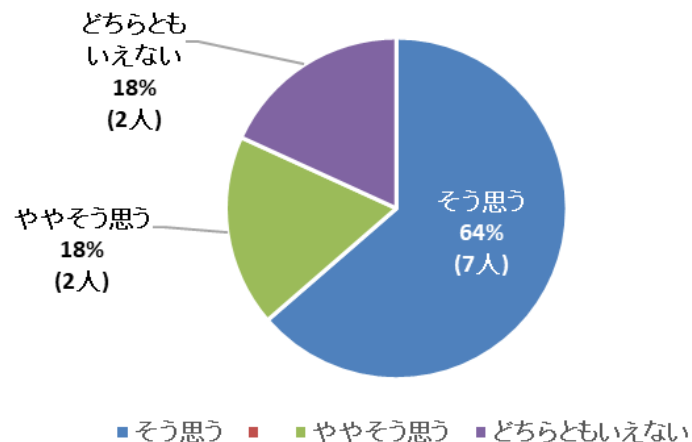
Q2.本日の勉強会の満足度を教えてください。



■とても満足している ■満足している

■どちらともいえない ■やや満足していない ■満足していない 0人

Q3.秦野市のまちづくりにとってまちづくり会社は必要・有効と思いますか。

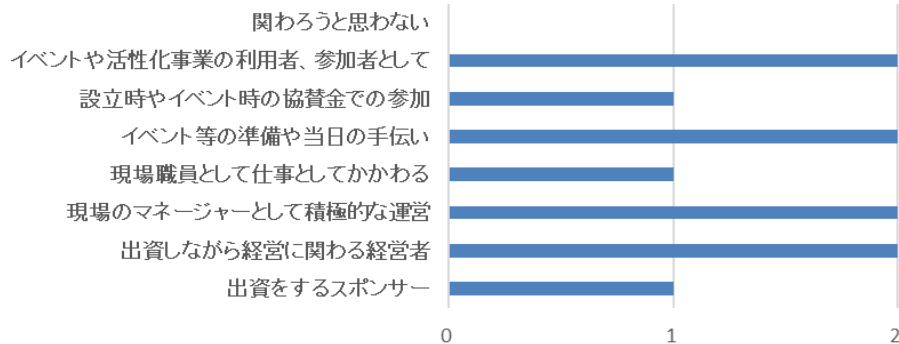


■あまり必要ない ■必要ない 0人

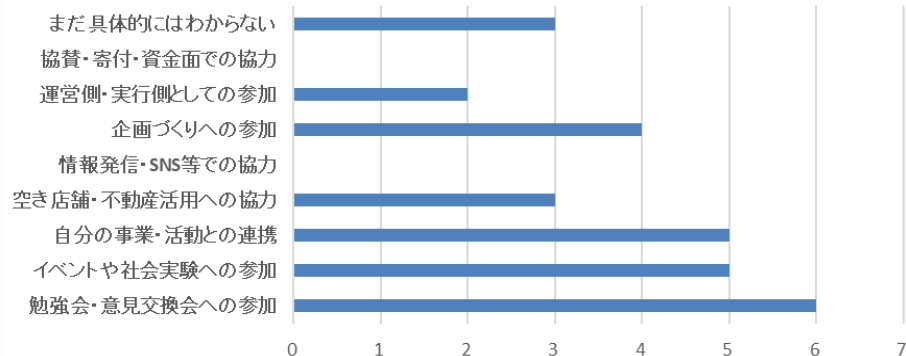
まちづくり勉強会「秦野のまちを、もっと面白く」開催結果

7 参加者アンケート結果②（回答人数：11人）

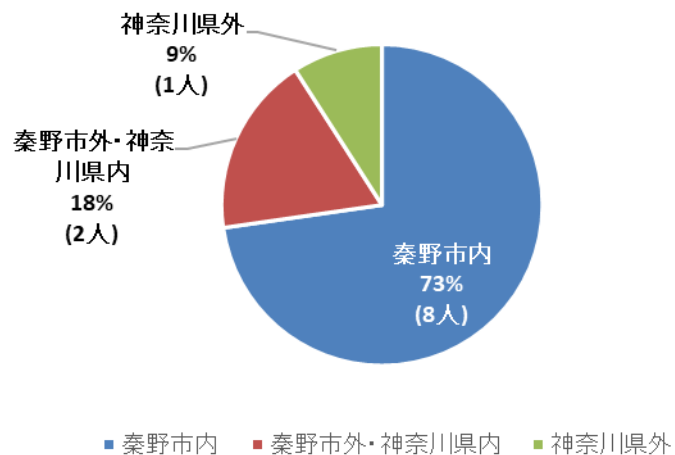
Q4.まちづくり会社に関わるとしたら、どのようなかかわり方ができますか。



Q5.今後、秦野駅北口周辺のまちづくりに関わるとしたら、どのような形がよいですか。（複数回答可）



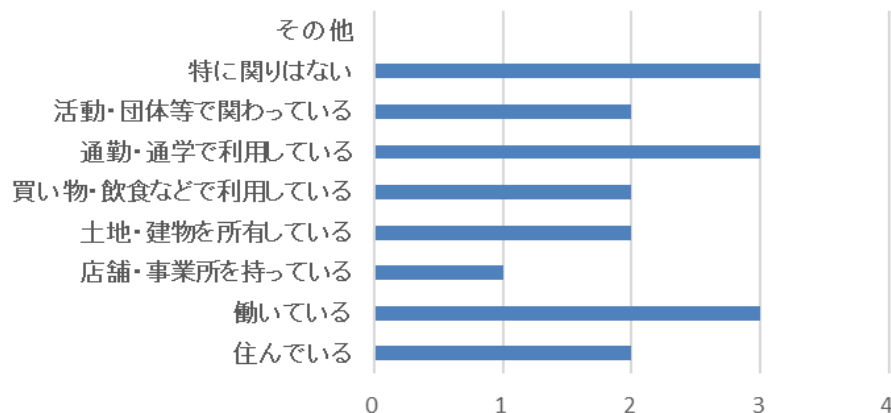
Q6.お住まいの地域を教えてください。



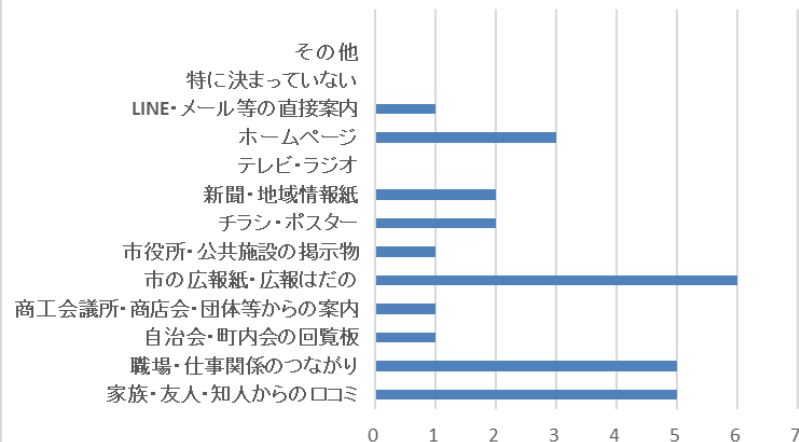
まちづくり勉強会「秦野のまちを、もっと面白く」開催結果

7 参加者アンケート結果③（回答人数：11人）

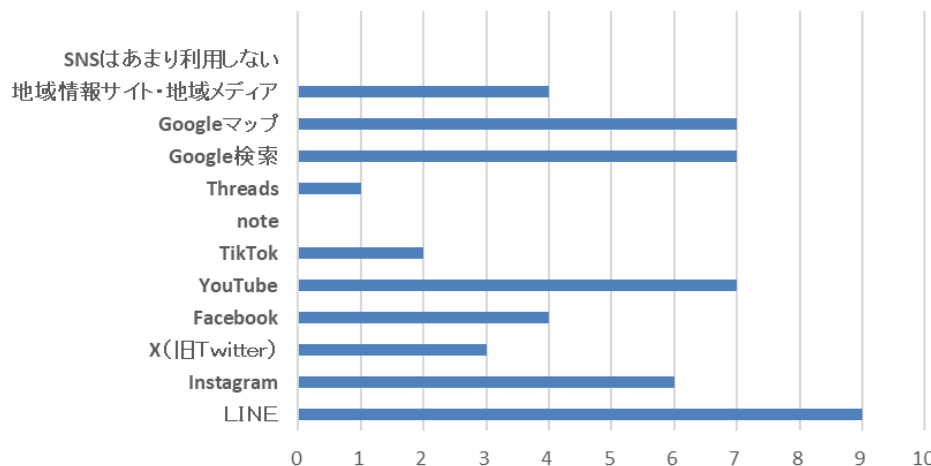
Q7. 秦野駅北口周辺との関わりを教えてください。（複数回答可）



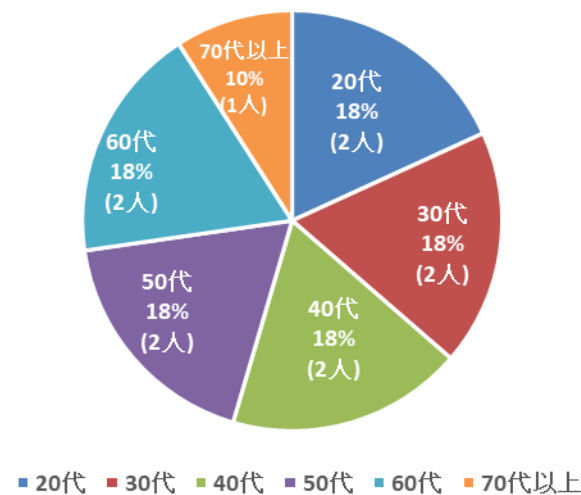
Q8. 普段、地域の情報やイベント情報をどこから得ることが多いですか。（複数回答可）



Q9. 普段よく利用しているSNS・情報サービスを教えてください。（複数回答可）



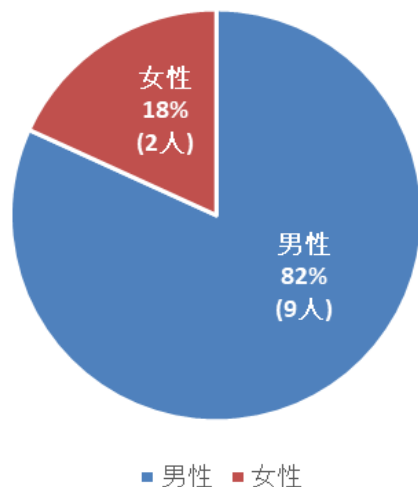
Q10. 年代を教えてください。



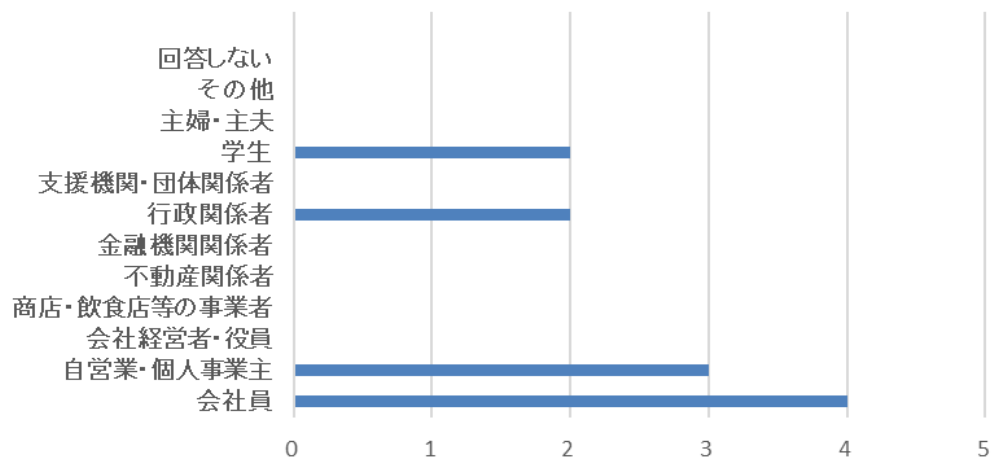
まちづくり勉強会「秦野のまちを、もっと面白く」開催結果

7 参加者アンケート結果④（回答人数：11人）

Q11.性別を教えてください。



Q12.ご職業・お立場に近いものを教えてください。
（複数回答可）



Q13.勉強会の内容で特に印象に残っていること（自由記述）

- ・ 民間の独立したまちづくり会社の運用 ・ まちづくり会社の存在を初めて知った。
- ・ 商店街の活性化ではなく「住民の暮らしの質の向上」を目指すことで「にぎわい」が戻ってくるという考え方
- ・ 商店街活性化とは、なぜ？どうなること？誰がやるの？といった、どうしてかに追及することが大切になってくること。
- ・ にぎわいではなく、秦野好きを増やす仕掛けや、秦野ファンを増やすことが肝だと感じた。
- ・ 秦野市をより良くするためにはどうしたらよいか、どういう考え方を持てばよいのかを知るきっかけになった。
- ・ 若者を巻き込み、若者主導で進めていくことの大切さを知った。
- ・ 背中を押してくれる勉強会でした。自分達の現在地も確認できました。やはり、思いがあるなら自ら動けの精神ですね。
- ・ 次の3点が印象に残りました。
 1. 全員合意が前提ではない。出資をしたり、お金をかけてリスクを取っている人たちが決めたことで動いていく
 2. 世代ごとに役割がはっきりある
 3. 次の世代の為とはこれから生まれる子供達の為

まちづくり勉強会「秦野のまちを、もっと面白く」開催結果

7 参加者アンケート結果⑤（回答人数：11人）

Q14.今後の勉強会で取り上げてほしいテーマ（自由記述）

- ・まちづくりは地元商店街が中心になりがちだが、まちなかを利用する市民や自治会、学校などとの関わりも必要ではないか。
- ・ステークホルダーによる勉強会（「自分ごと」として当事者が議論することが必要だと思う。
- ・時代背景や歴史を深く理解できる勉強会
- ・現在秦野市が取り組んでいる多世代交流施設整備の役割について
- ・まちのビジョンづくり
- ・遊休不動産を活用した創業支援